

演劇 相模友士郎

LOVE SONGS

観客のまなざしが、
不在の「あなた」を
呼び起こす無人劇

2019 1月12日〔土〕18時開演
13日〔日〕15時開演
※開場は開演30分前を予定

会場 京都市東部文化会館 ホール

12月17日〔月〕19時〜プレトーク 相模友士郎×白井剛『モノ』に呼びかける

会場「ロームシアター京都3階共通ロビー」

『LOVE SONGS』上演にさきがけ、ボウリングの球や食器、水など様々な「モノ」との関わりの中でダンス作品を創作する振付家・ダンサーの白井剛と、物言わぬ「モノ」と関わる方法について語ります。

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都×京都市文化会館5館連携事業 地域の課題を考えるプラットフォーム
CIRCULATION KYOTO(サーキュレーションキョウト)劇場編

日程「2018年12月1日〔土〕↓2019年3月24日〔日〕」会場「京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエステイ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館」●文化会館を巡りながら京都のまちを体感する4カ月15組のアーティスト「中野成樹+フランケンズ、村川拓也、相模友士郎、遠山昇司、きたまり」が、京都の中心部を囲む5つの地域(伏見区・西京区・山科区・北区・右京区)を出発点に創作し、新作の舞台作品を連続して発表。

山科 相模友士郎 『LOVE SONGS』

2019年1月12日[土] 18:00開演、13日[日] 15:00開演

※開場は開演30分前を予定

会場 | 京都市東部文化会館 ホール

観客のまなざしが、不在の「あなた」を呼び起こす無人劇。

一人暮らし、公団、川、歌、植物、庭…様々なものを足がかりにしながら今回相模が構想するのは、誰もいない舞台。だが、やがてなにかの音が聴こえてくる。相模が山科で実際に生活しながら得た「語り」を劇場に召喚し、劇場空間を満たすとき、わたしたちは何を、そして誰を想像するだろうか。

構成・演出 | 相模友士郎 ドラマトゥルク | 細馬宏通(滋賀県立大学教授)

舞台監督 | 夏目雅也 照明 | 高原文江 音響 | 西川文章

演出補佐 | 山田咲 制作 | 清水翼

地域ドラマトゥルク | 上原由佳、藤沢重徳、皆川由起



相模友士郎

演出家。1982年福井生まれ、京都市在住。70歳以上の伊丹の高齢者たちと制作した『DRAMATHOLOGY/ドラマソロジー』(2009年)で鮮やかなデビューを果たし、その後も様々なコミュニティに入り込みながら、劇場で見るといふ身体的経験を問い直す上演を続ける。12年にダンス作品『天使論』(TPAM in YOKOHAMA 2012)を発表、各地で再演を重ねる。最近作に、『スーパーインポーズ』(まつもと市民芸術館、福井市文化会館 2016年)、ダンサーの佐藤健太郎との共同制作による『ナビゲーションズ』(14年)など。

【チケット】

全席自由

一般 2,500円

ユース (25歳以下) 1,500円

シニア (70歳以上) 1,500円

5演目チケット 5,000円

※車椅子でご来場の方は、事前にロームシアター京都 チケットカウンターまでご連絡をお願いします。

※未就学児童入場不可

※ユース、シニアチケットご購入者は、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書(学生証、保険証等)をご提示いただき、入場券とお引換えいたします。

●ロームシアター京都オンラインチケット
24時間購入可 <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>
要事前登録(無料)

●ロームシアター京都 チケットカウンター
TEL.075-746-3201
(窓口・電話とも10:00~19:00/12月29日~1月3日 休館)

●文化会館窓口
(窓口・電話とも9:00~19:00/
毎週火曜日(休日の場合は翌日)および12月28日~1月4日 休館)
京都市東部文化会館 TEL. 075-502-1012

●京都コンサートホール チケットカウンター
TEL.075-711-3231
(窓口・電話とも10:00~17:00/第1・3月曜日(休日の場合は翌日)
および12月29日~1月3日 休館)

問い合わせ
ロームシアター京都
075-771-6051

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団(ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館)、京都市 助成 | 一般財団法人地域創造、平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



演出ノート

「植物と演劇をする」

1 | 山科に引っ越した8月23日は台風の前日で、引っ越した部屋には広い庭があって、庭の奥には細い竹が植わっている。その竹が庭と向かいのアパートとの境界を仕切っている。その竹が強風で右に左に、手前に奥に弾けるようにしなり、テレビ線だか、ネット線だかのライフラインが竹に絡まり引きちぎられそうになっている。危機的だ、と思った。カーテンも家具もテレビもネット回線もない部屋で、窓越しにその光景を見ていた。

2 | 植物はわたしたちの境界を区切るために植えられる。しかし、植物たちはわたしたちの社会とはまったく無関係な時間の中で存在している。

3 | 今、このメモを書いている部屋から庭に目をやると、変わらず庭では竹が揺れ、名も知らぬ草木が育ち、枯れている。一方で私の部屋に目をやると書類や本、グラス、カメラ、椅子などが昨日と同じ場所で同じように留まっているが、これらも私によって片付けられ、収まる場所に収められるだろう。

4 | 庭と部屋。この2つの場所は同一の時間と共に変化し続けているが、庭には人為的なものを無視した植物的な時間の変化が、部屋には私によって動かされる人為的な時間の変化がある。仮に演劇の時間というものが私の部屋に流れるような人為的な時間の変化だとしたら、植物的な時間を演劇で扱うことはどのようにして可能だろうか。

5 | 時間そのものを見ることはできない。一方でふと庭に目をやると時間の変化に遅れて気づかされることがある。わたしたち人間の生活が時間を忘れることで保たれているとすれば、「植物と演劇をする」とは、植物的な時間を通して時間そのものに触れる試みである。

6 | 人は眠る。

相模友士郎



京都市東部文化会館

京都市山科区柳辻西浦町1番地の8

地下鉄東西線 | 「柳辻」駅下車1番出口より徒歩7分

京阪バス | 山科駅方面より22・22A・24「八反畑」下車徒歩2分 / 六地藏方面より

22・22A「八反畑」下車徒歩2分 / 石田方面より24「八反畑」下車徒歩2分